秋田県立角館南高等学校

校長挨拶【3学期始業式より】　H24.1.16　第34代校長　菅 原 明 雅

　おはようございます。そして、新年あけましておめでとうございます。今年も宜しくお願いします。
　2011年（平成23年）は、東日本大震災という未曾有の国難に襲われ、それに終始した1年でした。そして2012年（平成24年）はその復興元年として、東北が元気よく立ち上がる年だと考えます。本校でも、具体的に目に見える支援をしたいということで、生徒会･職員･PTA･同窓会等本校関係者が総力をあげ、岩手県陸前高田高校への支援を行いましたが、今なお瓦礫の処理がなされない状況を思うと「復興」にはまだまだ時間がかかるように思われます。それ故、本校の支援も単発に終わることなく継続したものでなければなりません。「今後どのような支援をしてゆくのか」の宿題を年頭に当たり皆さんに課したいと思います。生徒会が中心になって具体的な方策をまとめてください。

入学式

1学期終業式

2学期始業式

2学期終業式

　さて、今年の賀状にT先生夫妻からのものがありました。先生夫妻は共に私が尊敬する先輩教師で、毎年男先生は俳句を女先生は和歌を添え、近況報告を記した賀状をくれます。今年は共に喜寿を迎える年齢になったとあり、その後に「Tはブータンで正月を迎え、幸せとは何かを考えます。」という一文がありました。77才を迎える先生があの山岳国ブータンで正月を迎え、「幸せ」について考えるという。大胆かつ好奇心あふれる先生らしい実践だと感嘆すると共に、「幸せ」とは何かという本質を頭だけではなく具体的に体感したいというその行動力に爽やかな感動を覚えました。「さすが尊敬するT先生」と改めて思ったわけです。
　ところで私が若い時、クラスの生徒が学校に来られなくなったことがありました。家庭訪問を繰り返していたある時、彼女がいきなり「人は何のために生きているのですか？　先生。」と問うたのです。私はまだ若く、正直うまく応えられませんでした。その後も家庭訪問を繰り返しましたが、結局彼女は出校できず学校を去ってゆきました。苦い思い出です。教師にとって、クラスの生徒が学校を去ってゆくことは思いの外、辛いものです。なぜこうなってしまったのか、あの時別の対応をしていれば等と、いろいろ考え落ち込みました。そして自分の力量のなさを悔やみ、何とも言えない敗北感を覚えたものです。そして「人は何のために生きているのですか？　先生。」という問いは、その後も私の頭をもたげました。 しかし今、同じ質問を生徒にされれば私は迷わず、「人は幸せになるために生きている、と思うよ。」と応えます。「人はこの世に生まれたからには、幸せに生きなければならない、幸せにならなければなりません。」今皆さんが勉強していることも、将来の職業について考えていることも、それらはすべて皆さんが幸せに生きること、幸せになることに繋がるものです。そして校内外の指導や「いじめ」は決して許さないと先生たちが繰り返すのは、本校の生徒一人ひとり全員が幸せであって欲しいと願うからです。

　3･11以降、「どのように生きることが幸せなことなのか？」「物質的な豊かさで本当の幸せは得られるのか？」という根本的なことを日本人は考えるようになりました。またブータン国王夫妻の来日をきっかけに、「GNP（国民総生産量）」より「GNH（国民総幸福量）」の方が大切なのではないか、と根源的な問題を問い直す人も増えてきているように思います。（そしてその問いに対する答えは同じ日本であっても、都会より地方に住む私たちの方が見つけやすいと私は考えています。）原発事故で「ふるさと」に帰るに帰られない福島の人々。美しい緑の山と青い海のある「ふるさと」を失いかけている人々の心の痛みを思うと、私は言葉を失います。そして改めて私たちにとっての「幸せ」とは何かを考えます。
　T先生がブータンで「幸せ」についてどう考えたか直接伺ってみたいと思いますが、その前に自分な

りの「幸福論」をまとめてみたいと考えています。

　２０１２年（平成２４年）が、皆さん一人ひとりにとって「幸せ」な年となり、本校「角館南高等学校」の「総幸福量」がより増す年となるよう祈念し、３学期始業の挨拶と致します。